



TITLE:

編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記. 京都大学生涯教育学・図書館情報学研究 2003, 2: 208-208

ISSUE DATE:

2003-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/43816>

RIGHT:

編集後記

昨年創刊したばかりの『京都大学生涯教育学・図書館情報学研究』が、皆さまのご支援ご協力をいただきながら、第2号の発刊にこぎつけました。前号に引き続き、両講座の大学院生を中心に生涯教育学・図書館情報学における研究・教育活動の活性化と、研究成果の発表と交流を目指して編集し、今年も12本もの論文・レポートなどが寄せられました。特に今回からは「調査報告」・「ブックレビュー」・「講演記録」を新たに設け、より柔軟で幅広い研究成果の蓄積と共有をすすめる材料が寄せられました。また生涯教育・図書館という公共の実践に深く関わる教育・研究領域の特性を生かし、今日のビビッドな課題に向き合ういくつもの報告が揃っているのも今回の成果といえると思います。それと同時にいくつかのすぐれて現代につながる課題意識をもった歴史研究や、招聘講師などによる国際的な比較研究・報告といった、当講座ならではの厚みを持った研究成果への方向も打ち出せたかと思います。また今回はこの間生涯教育学のゼミに参加されてきた野村知二さん（京都市教育委員会所属）にも編集委員会から寄稿を依頼し、「児童虐待」と「リスク」をめぐる言説についてのユニークな考察を提起していただくことができました。今後も研究室の教官・院生の研究成果の活発な発信を追求しながら、ゼミや研究室活動に関わって育てていただいている仲間とともに開かれた交流と討議の場として築いていけたらと考えております。私たち研究室において別途編集発行しております国際的多言語雑誌“Lifelong Education and Libralies”（今回第三号では「E.ジェルビ追悼特集」を掲載）と合わせて、より着実かつ大胆な学問的成果の発表の場をもとめて、今後も皆さんの積極的なご参加とご注目をいただければ幸いです。最後に今回も未だ二号目で手探りの編集方針のなかで度々の試行錯誤と遅れがちの作業に根気よく助言と協力をいただいた前平・川崎・渡邊の各先生方をはじめとした皆さまに感謝の言葉を添えて、この号をお手元にお届けします。

（2003年早春 編集委員会事務局 吉田正純 記）